

令和6年度 授業改善推進プラン 社会科 (大森第三中学校)

<昨年度の授業改善推進プランの検証>

★取り組みにおける成果と課題

3年生 卒業生	<ul style="list-style-type: none"> ○視聴覚教材や資料集等を活用したノートまとめに取り組むことで学習事項の内容の確認をし、理解を深めることができた。 ○既習事項及び学習事項に関する様々なネット情報をタブレットの掲示板で紹介し、学習を深め、定着させる機会とすることができた。 ○受検期に集中的に復習課題に取り組む機会をもち、3年間の学習のまとめを行うことが出来た。
2年生 現3年生	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎・基本の復習を繰り返し、定着の不足していた内容の確認をすることができた。定着が不十分な分野の確認を継続していく。 ○定期考査での出題の工夫や考えを深める学習の工夫を行ったことで、見方・考え方を広げる機会をつくった。 ○長期休業中に復習課題に取り組む機会をもち、単元のまとめを行うことで、大きなまとまりで学習を振り返ることができた。
1年生 現2年生	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎・基本となる内容を繰り返し確認する機会を設けたことで定着を図ることができ、学習に向かう態度の向上にも結びつけることができた。 ○ワークシートなどに自分の考えを書き、発表する機会をもち、見方・考え方を広げることができた。 ○記述問題への取り組み方を指導や、定期考査の出題を工夫し、記述問題に取り組む意欲は向上している。

<社会科の内容別結果の分析> (区・学習効果測定)

内容	1年生	2年生	3年生
地理的分野	<ul style="list-style-type: none"> ○「世界の中の日本」の「日本とつながりが深いアメリカ合衆国」に関する設問で校内正答率が目標値を12ポイント下回った。また「外国人の生活の様子」について日本の文化や習慣との違いを捉えて記述する設問で校内正答率が目標値を18ポイント下回った。 ○「日本国憲法」の「非核三原則」に関する設問で校内正答率が目標値を22ポイントと大きく下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「世界の姿」では、目標値をわずかに上回った。特に「世界の姿」の「国境のきまり」に関する問題や、「世界各地の人々の生活と環境」の「世界各地の住居の特色」に関する問題では、校内正答率が目標値を5ポイント以上上回った。 ○「日本の姿」「世界の諸地域」では、校内正答率が目標値を大きく下回った。「領海と領空」に関する問題や、「遊牧」という語句を答える問題では、校内正答率が特に低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「中部地方の農業」に関する問いは、目標値を6ポイント上回り、その他「日本の地域的特色」について答える問題では3問は目標値に近かった。しかし、その他の分野・項目については目標値を下回った。中でも地理の「地域調査の手法」の領域では、校内正答率が18ポイント以上下回った。 ○「日本の地域的特色と地域区分」の日本の資源やエネルギーの課題について記述する問題では、校内正答率が目標値を26ポイントと大きく下回った。
歴史的分野	<ul style="list-style-type: none"> ○縄文時代から平安時代の内容では、「渡来人」「聖武天皇の業績」に関する設問で校内平均点が目標値を10ポイント程度下回った。 ○明治時代から昭和時代の「内容」では、「明治時代から大正時代までの歴史の流れ」について考察する設問で校内正答率が目標値を18ポイント下回った。 ○「源義経」に関する設問では目標値を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「縄文～古墳時代」「飛鳥～平安時代」「中世の日本」のすべての領域では校内平均正答率が目標値を下回った。 ○特に「飛鳥～平安時代」では、4問中3問で目標値を下回った。中でも、「世紀の表し方」に関する問題では、特に正答率が低かった。「中世の日本」では、ほとんどの問題で目標値に近い正答率であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○15問中5問は目標値に近かったが、その他の10問については目標値を下回った。 ○特に、明治時代の領域では、校内正答率が目標値を8ポイント下回った。 ○「幕府の対外政策」のアヘン戦争について記述する、記述解答の問題では、校内正答率が目標値を20ポイントと大きく下回った。

<社会科の観点別結果の分析> (区・学習効果測定)

観点	1年生	2年生	3年生
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ○観点別の校内平均正答率が目標値を5ポイント下回った。 ○「非核三原則」「国民の権利及び義務」「三権分立の仕組み」「国会の役割」「渡来人」「聖武天皇の業績」「文明開化」「満州事変」の設問で校内正答率が目標値を顕著に下回っており、内容の理解に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○校内平均正答率が目標値を3ポイント下回った。 ○「国境のきまり」に関する問題や、世界各地の住居に関する問題では、目標値を大きく上回った。 ○「北アメリカ州の工業」や「時差」に関する問題の校内正答率は目標値に届かず、課題がみられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○校内平均正答率が目標値を下回った。 ○地理的分野、歴史的分野とも目標値を大きく下回った問題は知識・技能の設問が多かった。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○観点別の校内平均正答率が目標値を8ポイント下回った。 ○「アメリカ合衆国と日本の関わり」について複数の資料から考察する設問や「イスラム教徒の観光客」について複数の資料をもとに考察し表現する設問で校内正答率が大きく目標値を下回り、資料からポイントを読みとり、判断・表現することに課題がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○校内平均正答率が目標値を3ポイント下回った。 ○「鎌倉時代の仏教の特色」について資料を活用して考察し短文で記述する問いでは、約10ポイント目標値を上回った。 ○ヒンドゥー教の特色について、資料を活用して考察し、短文で記述する問題では目標値を下回った。また、「縄文時代の生活」について資料を用いて考察する問題でも目標値を下回り課題が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○思考・判断・表現に関する問題について、校内平均正答率が目標値を下回った。 ○選択式の問題では、ある程度の正答率があるものの、記述問題については明らかに課題がみられた。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ○観点別の校内平均正答率が目標値を5ポイント下回ったが2つの設問では目標値を上回った。 ○文章で記述して答える2つの設問では、無回答が2～3割と多く、課題といえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○校内平均正答率が目標値を1ポイント程度下回ったが、目標値にかなり近かった。 ○ほぼすべての問題で、目標値に近い正答率だったが、東南アジアのASEANの国家間における経済格差について考察する問題では、目標値を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的に学習に取り組む態度に関連する問題について、正答率が目標値を下回った。 ○複数の資料を読み取る問題や、記述問題について特に課題がみられた。

<社会科の課題と具体的な授業の改善策>

学年	課題	具体的な授業改善策
1年	<ul style="list-style-type: none"> ○全体的に学習事項の知識の確実な理解に課題がみられる。また、複数の資料を読み取ったり考えた内容を適切に表現しようとする姿勢にも課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習内容の確実な定着のため、今回の効果測定で理解が不足している内容などを中心に振り返り学習の時間や機会を設ける。また、既習事項の確認も繰り返し行っていく。また、社会的現象を多角的にとらえる視点をもつことで、学習内容の学びを深めさせたい。 ○複数の資料を読み取って考察を深め、表現していく活動を取り入れる。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ○全体的に基礎的な問題の正答率が活用問題よりも低く、基礎的・基本的な知識に課題が見られる。 ○資料を読み取って答える問題では、特に正答率が低い傾向が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業やその他、様々な機会に繰り返し復習をする場面を設定する。 ○資料を読み取らせる機会を増やし、正しく資料を読み取る力を伸ばす必要がある。複数の資料や材料をもとに考えを深める活動を行う際、考えるポイントを明確にし、論理的な思考力を高める工夫をする。また定期考査の出題を工夫し、考査後のふり返りも丁寧に行っていきたい。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○全般的な知識の定着に課題が見られる。 ○複数の資料を読み取り、関連付けて考察する問題や、記述問題が得意でない傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習内容の定着のために、既習事項の確認を様々な機会に行っていく。重要な語句については、内容の確認と共に正確に書き表す習慣をつけさせていく。 ○生徒のタブレットからアクセスできる学習ソフトなども活用し、記述や資料の読み取り問題にも取り組ませていく。 ○入試問題や定期考査の問題などの発展的な問題にも取り組ませながら、丁寧に解説する機会を設けていく。